

曲目解説

(ソプラノ&ギター)

シャルル・グノー 歌劇「ロメオとジュリエット」より「私は夢に生きたい」

ロメオとジュリエットと言えば、誰もが聞いたことはある「敵対する家柄の若者の悲恋を描いた」シェイクスピアの戯曲です。フランスの作曲家グノーはこの戯曲をもとに歌劇を作りました。「私は夢に生きたい」は、ジュリエットがロメオに会う直前、漠然とした恋心と青春のほかなさを歌うアリアです。ソプラノの華麗で優美な音と融合させた魅力たっぷりの曲です。

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル 歌劇「リナルド」より「私を泣かせてください」

ヘンデルは、バッハと並ぶバロック期の大作曲家です。たくさんの歌劇の中の歌が300年以上後の現在でも歌われています。敵に捕らわれた女性アルミレーナが恋人を思って歌います。

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル 歌劇「セルセ」より「樹木の陰で」 (ラルゴ)

歌劇「セルセ」で、セルセ(ペルシア王クセルクセス)が、1本の樹を眺めながら、その美しさを称えて歌います。ヘンデルのもっとも有名な歌です。「ラルゴ」という名称でも知られています。叙情に満ち、ゆったりとした節回しで書かれています。

レオ・ドリーブ 「カディスの娘たち」

ドリーブは、19世紀後半に活躍したフランスの作曲家です。「カディスの娘たち」は、ドリーブの有名な歌曲で、スペインのカディスに暮らす自由奔放な娘たちを描いています。軽快なボレロ調のサウンドに合わせて踊る娘たちの姿をイメージできる曲です。ソプラノの高音の歌が威力を発揮します。

(ギターソロ)

ヨハン・カスパー・メルツ 「ハンガリー幻想曲」

この曲はハンガリー出身のギタリスト兼作曲家としてウィーンで活躍したロマン派を代表するギタリスト、ヨハン・カスパー・メルツの代表作です。堂々としながらもどこか哀愁を感じさせる曲調で始まり、次第に明るく軽快になっていき、最後には華やかな終わりを迎えます。彼の故郷へと向けた思いを感じられるような曲です。

(ソプラノ&ギター)

武満徹 「翼」

武満徹は、世界的に有名な日本を代表する作曲家です。武満の曲には、難解なものも多いのですが、親しみやすいものもたくさんあります。今回歌っていただくこの「翼」は1982年に東京・西武劇場で行われた劇「wings」の劇中に歌われていた曲で、ポップスのような曲でありながらノスタルジックです。

武満徹 「小さな空」

武満徹は映画音楽やドラマの音楽もたくさん残しています。「小さな空」はラジオドラマのために書かれた歌です。青空、夕暮れ空、夜空それぞれ表情の違う空を見上げた時に子供の頃の甘く切ない思い出や懐かしさがこみ上げるような美しいシンプルなメロディが印象的です。

～～休憩～～

(ギターソロ)

スペイン民謡 「愛のロマンス」～ 映画「禁じられた遊び」のテーマ

古いスペイン民謡をもとにしたギター曲です。1952年に公開されたフランス映画「禁じられた遊び」でこの曲が主題曲として使われて、世界的に有名になりました。今でも、ギター曲といえば、だれもが思い浮かべる名曲です。映画では、戦争で孤児になった少女の悲しい心が描かれますが、このギター曲も美しい中に悲しい愛の気持ちが込められます。

アントニオ・カルロス・ジョビン 「フェリシダージ」

映画「黒いオルフェ」のオープニングで使用された曲です。フェリシダージとはポルトガル語で「幸福・幸せ」を意味しています。「悲しみには終わりが無いが、幸せはそうでもない」と幸せの儚さを歌う情熱的なメロディの曲です。

ローラン・ディアンヌ 「タンゴ・アン・スカイ」

タンゴ・アン・スカイとは、フランス語で「なめし皮のタンゴ」という意味です。これには、「まがい物のタンゴ」「偽物のタンゴ」というような意味が含まれます。アルジェリア系フランス人である作曲者の作った正統派ではないタンゴという意味だと思われます。クラシックギターの世界では最も人気の高い曲です。CMでも使われていますので、ご存知の方も多いでしょう。

(ソプラノ&ギター)

アレクサンドル・アリャビエフ 「夜鳴きうぐいす」

ロシアの作曲家アリャビエフの作った歌曲です。夜中に美しい声で鳴くために「夜鳴きうぐいす」といわれる鳥、ナイチンゲールの音色を模して作られています。ロシア民謡風味な旋律に我が身の不幸を自由な鳥と比較し嘆く悲しい歌詞が、美しくも切ないストーリーを演出します。ソプラノの高音の技巧が楽しめます。

久石譲作曲 宮崎駿 作詞 「もののけ姫」より「もののけ姫」

1997年に作られた宮崎駿監督によるスタジオジブリの長編アニメ映画「もののけ姫」で使われた音楽です。当時、日本中のだれもが知る音楽でした。今でも、宮崎駿の映画といえば、このアニメ映画とこの音楽を思い出す方が多いでしょう。

木村弓 作曲 覚和歌子 作詞 「いつも何度でも」

宮崎駿監督によるスタジオジブリの長編アニメ映画「千と千尋の神隠し」の主題歌です。木村弓の歌で有名になりました。のびのびした優しいメロディが印象的な曲です。

久石譲 「耳をすませば」より「カントリー・ロード」

もともとはアメリカのポピュラーソングですが、スタジオジブリ映画「耳をすませば」の主題歌として有名になりました。近藤喜文監督によるこの映画は、聖跡桜ヶ丘駅周辺をモチーフとしています。この歌は若者が夢に向かって突き進む時に様々な覚悟を持ち帰りたいけど帰れない遠い故郷への思いを歌っています。

演奏者プロフィール

森 美代子 (ソプラノ)

東京都出身。東京音楽大学音楽学部声楽演奏家コース卒業。同大学院修了。在学中、特待生奨学金を授与される。2005年二期会オペラ研究所オペラストゥーディオ第48期マスタークラス修了時、優秀賞受賞。平成18年度文化庁新進芸術家国内研修員。第16回奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門第2位。第17回日本声楽コンクール第1位(併せて奥田良三賞、東京都知事賞、JTB賞も受賞)。第5回東京音楽コンクール声楽部門第2位(最高位)併せて聴衆賞を受賞。

2006年日生劇場オペラ「利口な女狐の物語」タイトルロールにて本格的にオペラデビュー。これまでに、「ドン・ジョヴァンニ」(ドンナ・アンナ)、「ラ・ボエーム」(ムゼッタ)、「昔噺人買い太郎兵衛」(おもん)、「フィガロの結婚」(スザンナ)、「三部作」の「修道女アンジェリカ」にて(ジェノヴィエツファ)、「椿姫」(ヴィオレッタ)、「リゴレット」(ジルダ)、「イオランタ」(タイトルロール)、「オルフェウス」(アモール)、「ヘンゼルとグレーテル」(露の精)などに出演する。

オペレッタでは「ルクセンブルグ伯爵」(ジュリエッタ)、「微笑みの国」(ミー王女)に出演。宗教曲のソリストとしてもモーツァルト「戴冠式ミサ」、ブラームス「ドイツレクイエム」、プーランク「スターバト・マーテル」、ジョン・ラター「マニフィカート」、ヴィヴァルディ「グローリア」、ヴェルディ「聖歌四篇」、ベートーヴェン「第九」など多数出演している。

12年東京文化会館小ホールにてリサイタルを行い好評を得る。国内主要オーケストラとの共演も多く、コロラトゥーラの美しい響きと、持ち前の表現力で聴衆を魅了している。二期会会員。

松尾 俊介 (ギター)

1979年京都市に生まれる。10代より東京国際ギターコンクール、日本ギターコンクールなど、数々のコンクールに受賞歴を持ち、1999年フランスに渡る。2003年パリ国立高等音楽院ギター科を審査員満場一致の首席で卒業。2004年には、同音楽院室内楽科を卒業、アントニー国際ギターコンクール(フランス)にて第3位入賞し、5年間のフランス留学を終えて日本に帰国する。

2005年、庄内国際ギターフェスティバルにて第1位オスカー・ギリア賞を受賞。古楽と現代音楽に焦点を当てたファーストアルバム「ヴァリエ 1」をリリース、11月にはトッパンホールにてデビューリサイタルを開催。

その後、HAKUJU ギターフェスタ、美山ギターフェスティバル、NHK-FM 名曲リサイタル、NHK-FM リサイタルノヴァ、ベオグラード国際ギターアートフェスティバル(セルビア)、サラエボの冬(ボスニア・ヘルツェゴビナ)、ヨンジュ国際ギターフェスティバル(韓国)、東京オペラシティ B→C 等に出演、ソロのみならず室内楽、オーケストラとの共演や新作の初演など、国内外での多彩な演奏活動を展開。

これまでにギターを渡部延男、福田進一、アルベルト・ボンセ、キャレル・アルムス、オリヴィエ・シャッサンの各氏に、古楽をエリック・ベロック氏に、室内楽をラスロ・ハダディ、上田晴子の各氏に師事。2008年、この年没後60年を迎えたメキシコの作曲家マヌエル・ボンセ作品集「Varie4/Ponce Guitar Works」をリリース、レコード芸術誌特選盤に選ばれる。地域創造・公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。

樋口ゼミの活動

- ・2009年4月 多摩大学樋口ゼミ発足。
- ・2009年6月26日、多摩大学内にて、新居由佳梨(ピアノ)と江島有希子(ヴァイオリン)を招いて「あらえじ・カンタービレ」。親しみやすい曲のほか、ベートーヴェン「春」などを演奏。
- ・2009年9月18日、多摩大学にて、日本を代表する作曲家の三枝成彰氏を招いて演奏会を運営。日本を代表するチェリスト山本裕康、有望なピアニスト新居由佳梨により三枝成彰の作品「チェロのためのレクイエム」改定版を日本初演。バッハ、リストなどの有名曲を演奏。
- ・2009年11月10日、パルテノン多摩大ホールで、世界的な若手のホープ佐藤俊介(ヴァイオリン)と菊池洋子(ピアノ)により多摩大学20周年記念コンサートを運営。曲目は、フランクのヴァイオリン・ソナタ、ラヴェルの「ツィガーヌ」など。ゼミ活動が多摩テレビでも紹介された。
- ・2010年8月25日、新居由佳梨(ピアノ)、江島有希子(ヴァイオリン)、三宅理恵(ソプラノ)を招いて、渋谷区のHAKUJU HALLで「音楽の宅急便」と題したコンサートを主催。ジブリの曲のほか、サン・サーンス、シューベルト、ベートーヴェンのソナタや歌曲を演奏。
- ・2011年4月8日、若手コロラトゥーラ・ソプラノのホープ森美代子、フィルハルモニア多摩のメンバー、そして多摩フィル音楽監督の今村能を招いて、パルテノン多摩小ホールにて「多摩音楽祭前夜祭、フィルハルモニア多摩、室内楽第一回定期演奏会」を運営。
- ・2011年7月1日、パルテノン多摩小ホールにて、フィルハルモニア多摩の金管楽器のメンバーのコンサートを主催。曲目はサン・サーンスの「動物の謝肉祭」など。
- ・2011年10月21日、フィルハルモニア多摩の木管楽器のメンバーによる「星空の窓辺から」と題したコンサートを稲城!プラザにてフィルハルモニア多摩と共同開催。演奏曲目は、モーツァルト「ナハトムジーク」、メンデルスゾーン「真夏の夜の夢」、イベール「3つの小品」など。
- ・2011年12月17日、九段の寺島文庫ビル「みねるばの森」にて樋口ゼミ卒業生による卒業制作コンサート。森美代子のソプラノ、松尾俊介のギターで、ソプラノやギターソロの名曲を演奏。
- ・2012年5月26日、唐木田菖蒲館ホールにて、「映画に用いられた音楽」を中心としたコンサートを主催。桐朋学園大学の学生である三人の有望な女性演奏家、久保山菜摘(ピアノ)、犬嶋仁美(ヴァイオリン)、松本亜優(チェロ)を招いて、親しみやすい名曲を演奏。
- ・2012年10月10日 永山駅前第5回永山学園祭を企画。安藤与夢(フルート)、廣田美柚(オーボエ)、喜多見倫子(クラリネット)、三田浩洋(ファゴット)、森尾楓(ホルン)による野外ミニコンサート。編曲は関向弥生。
- ・2013年1月9日 九段の寺島文庫ビル「みねるばの森」にて樋口ゼミ卒業生による卒業制作コンサート。日本を代表するソプラノ歌手・飯田みち代と作曲家、笠松康洋のシンセサイザーで、オペラや歌曲、笠松自身の曲を演奏。

樋口裕一・略歴 1951年大分県生まれ。多摩大学教授。250万部のベストセラーになった『頭がいい人、悪い人の話し方』や『ホンモノの文章力』『読むだけ小論文』などのほか、『頭がよくなるクラシック』『音楽で人は輝く』などの音楽関係の著書も多い。ラ・フォル・ジュルネ(『熱狂の日音楽祭』)のアンバサダーを務めている。

卒業制作担当 浅島悠作・井上真宏・山下航平

4年生 小峰将平・田中駿・玉田啓行・松田翔太・萩原誠子

3年生2年生 今井菜美(ゼミ長)・堀内一希(副ゼミ長)・中山玄(副ゼミ長)・池口望・伊東建貴・大川夏樹・大久保翔太郎・川田龍造・鈴木達人・中川英之・流川真帆・根木博信・黛海斗・森上和俊・原圭佑・野口裕貴・後藤雅朗・石原奈津希・太田茉里奈・藤本典子